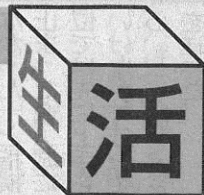


ファミリー



住宅街の一戸建てに暮らす共働き家庭で育ちました。父は車のセールスマン、母は市役所勤めの栄養士。父方の祖母と四歳上の姉を合わせて五人暮らし。

特別厳しくしつけられ、甘やかされたりするでもない。ごく平凡な家庭でしたが、当時の朝日家のキーマンを探すと「食のつながり」かな。母は栄養士という職業柄、朝夕の食事を必ず手作りし、全員で食卓を囲んだ。献立は質素でも特別でもない。肉、魚、野菜、卵など栄養のバランスが取れた食事が毎日淡々と出てくる。好き嫌がなく、体に必要なものもしっかり取るのが食の基本だと無意識のうちに教わりました。

一七五センチくらいに育ったのですが、運動は苦手でした。運動一家でなく、父から教わったこともない。小学校の「部活」でかじったサッカーもまるでだめ。むしろ数学や理科など勉強は得意で成績は良かった。

でも、このまま運動から遠ざかるのはカッコ悪いと、中学で、身長が生かせるバレーボール部に入りました。やはり特別活躍した

家族のこと話そう

元プロビーチバレーボール選手

朝日 健太郎さん

あさひ・けんたろう 1975年熊本生まれ。同市の私立鎮西高、法政大をへてサントリーバレーボール部へ。2002年、全日本代表からビーチバレーに転向。国内大会9連覇を達成するなど実績を積み、08年北京五輪に出場し9位。12年ロンドン五輪出場後引退した。NPO法人日本ビーチ文化振興協会理事長。ITコンサルティング会社のフォーバル所属。身長199センチ、体重90キログラム。

のではないのですが、中三で一九〇センチあったので下手でも目立って。熊本のバレーボール名門高からスカウトされたのです。進学校に

進むつもりだったし、両親が「バレー進学で人生どうなる」と大反対でした。しかし結局、仲間の勧めや高校側の熱意に負けて。以来、バレーボール漬けの日々。最初は鳴かず飛ばさずだったのが、監督の指導もあって力が発揮できるよ

母が栄養士

行き届いた食

うになり、チームは全国大会準優勝まで行きました。

五輪出場で孝行

励みとなったのは、両親の応援。それまでは特に濃い親子関係はなかったけれど、高校時代は地元から全国まで大会には必ずそろって来てくれた。これはうれしかった。面と向かいあいがとつとは言わなかったけど。親もあまり「頑張り」とは言わない。スポーツで何かを成し遂げる経験が自

分にもないので、ただ見守るしかなかったのでしょう。

他の選手に聞いても、ずっと前面に出て英才教育をした親より、控えめに見守ってくれたという例が多い。スポーツ選手が人格を築き上げていく上で、家族

の支え、家庭環境は重要です。

大学進学以降はバレーボールの「エリート街道」を進むわけですが、両親の立場は変わらなかった。一人暮らしの元に、さりげなくヒジキや切り干し大根を送ってくれたりしました。ビーチバレー転向は、脱サラに等しい決断だったので心配をかけ、一時関係も遠のきました。二回出場した五輪には応援に来てくれた一番の親孝行ができた。親子

関係から対等に近い関係にされたとも思います。

七年前に結婚し、今は自分が二人の子の親ですが、食を大切に、子に過度に干渉せずに長い時間をかけて寄り添うなど、朝日家の伝統を受け継ぐ家庭を築いていくつもりです。人生観や子育ての指針は結局、自分の両親を基準として学ぶしかないですから。

聞き手 白鳥龍也
写真 戸上航一

